

## フランス語

フランス語科目の学修の目安(到達のポイント)および学習動機別の効果的な履修モデルは以下のとおりです。

### (1)フランス語学修の目安

	到達のポイント	習得する語彙数の目安	資格検定などで対応するレベル
<b>初級</b>	<p>フランス語の発音と綴り字の関係、基本的な文法や語彙を習得し、その基本的な運用に習熟する。また日本語や英語との対照から、フランス語特有の表現方法に着目し、その背後にあるフランス語的な発想・思考・価値観・文化のありようを理解する。</p> <p><b>【読む】</b>日常的ないし身近な分野についての文章や、Web サイトのニュース記事の見出し・要約部分などを、辞書を引きながら独力で比較的容易に読解できるようになる。</p> <p><b>【書く】</b>学習した基本文型を用いて、ごく簡単な内容を書くことができるようになる。友人にむけた短い手紙・メールを書けるようになる。</p> <p><b>【話す・聞く】</b>自分について表現するための最低限の表現力を獲得し、日常生活で遭遇する具体的な状況において相手がゆっくり話す場合であれば、簡単なコミュニケーションができるようになる。</p>	800	仏検 4 級・DELTA A2 程度
<b>中級</b>	<p>初級の学習内容を補完し(接続法半過去・大過去など)、それを多様な状況のなかでよりスムーズに応用できるようになる。フランス語圏の文化について理解を深める。</p> <p><b>【読む】</b>辞書を引けば、ある程度高度なテキスト(新聞記事、評論、文芸作品、哲学・思想書など)を独力で理解し、必要な情報を取り出してくることができるようになる。研究でフランス語を使用するさいの最低限の基礎を習得する。</p> <p><b>【書く】</b>辞書・参考書の助けを借りれば、論理的な構成をもつ 4 - 5 行程度の文章を書けるようになる。より表現力に富んだ比較的古い手紙・メールを書けるようになる。</p> <p><b>【話す・聞く】</b>定型表現に習熟し、自分に馴染みのある内容について標準的な表現ではっきりと話されれば理解できるようになる。旅行先において簡単な問題を解決したり、自分の関心事や計画について短く説明することができるようになる。</p>	1500	仏検 3 級・DELTA B1 程度
<b>上級</b>	<p>フランス語文法に十分習熟し、状況に応じてかなり自由に使いこなすことができるようになる。困難を感じることもあるが、ほとんどの場合にフランス語で対処し、問題を解決できるようになる。この段階にまで達すれば、フランス語を自分のものにできたと見え、各自の必要に応じて今後問題なく運用力を深めていくことができる。</p> <p><b>【読む】</b>かなり高度なテキスト(接続法や条件法が頻出したり、フランス語特有のレトリックを含むものなど)を、それほど困難なく読解できるようになる。</p> <p><b>【書く】</b>辞書・参考書の助けを借りれば、日常生活や学校・職場で必要な内容について比較的自由に表現することができるようになる。</p> <p><b>【話す・聞く】</b>リラックスした状況であれば、日常生活や学校・職場で必要な内容について、適切な構文と表現で、ほぼ支障なくコミュニケーションがとれる。馴染みのない話題や複雑な議論に自在に参加するところまではいかないが、それでも話の流れの概略を追うことはできるようになる。テレビ・ニュースの概要も理解できるようになる。</p>	3000	仏検 2 級・DELTA B2 程度

(2)フランス語履修案内

学習動機	大学院進学や長期留学も視野にいれ、専門(研究・仕事)でフランス語を活用したい。
効果的な履修モデル	<p>【1年次】初級(総合)Ⅰ・Ⅱ＋初級(実践)Ⅰ・Ⅱ。</p> <p>【2年次】中級を春夏学期2コマ、秋冬学期2コマ履修。読解とコミュニケーションをバランスよく学習できるように科目選択する。</p> <p>【3～4年次】上級2コマおよびフランス語を扱う共通ゼミを履修。また、「フランス語短期海外語学研修」プログラムが全学部全学年に開かれている。「フランス語中級(短期海外語学研修準備)」を履修のうえ参加すれば、フランス語運用能力の向上により効果的であろう。</p>
学習動機	将来フランス語を専門的に用いるか分からないが、フランス語には大変興味があり、基礎をしっかりと身につけておきたい。
効果的な履修モデル	<p>【1年次】初級(総合)Ⅰ・Ⅱ＋初級(実践)Ⅰ・Ⅱ。</p> <p>【2年次】中級を春夏学期1～2コマ、秋冬学期1～2コマ履修。</p> <p>【3～4年次】上級1コマを履修し、1～2年次で習得したフランス語能力の維持をはかる。もちろん、学習するうちに興味がありました場合は、適宜履修科目数を増やせばよい。</p> <p>この間、自らの修学状況に応じて、上記の「フランス語短期海外語学研修」プログラムに参加することもできる。</p>
学習動機	専門的にフランス語を用いることはないが、旅行ではフランス語を活用したい。
効果的な履修モデル	<p>【1年次】初級(総合)Ⅰ・Ⅱ＋初級(実践)Ⅰ・Ⅱ。</p> <p>初級(速修)、もしくは初級(速修)Ⅰ・Ⅱを履修しながら、初級(実践)Ⅰ・Ⅱを履修することも考えられる。</p> <p>【2年次】中級を春夏学期1コマ、秋冬学期1コマ履修。とくにフランス人のクラスを履修し、コミュニケーション力を磨く。もちろん、余裕があれば3～4年次に上級を履修してもよい。</p> <p>この間、自らの修学状況に応じて、上記の「フランス語短期海外語学研修」プログラムに参加することもできる。</p>